

コミュニケーション能力を高める小学校外国語活動・外国語科

研究代表者：藤本典子(和歌山大学教職大学院)

共同研究者：尾上利美(和歌山大学教育学部),

炭本直子(泉大津市立楠小学校),

山下真二, 阿部敬子, 三谷崇浩, 坂田花子, 西端千景, 杉本智美,

鈴木亮, 仁儀誠, 花岡利那, 坂田悠太, 加藤健司, 竹井弘子,

鈴木千秋, 山崎美紅, 田中裕子 (和歌山市立東山東小学校)

1. はじめに

本年2020年度より小学校中学年に外国語活動、高学年は教科として外国語科が導入され、外国語教育の枠組みが大きく変更された。新学習指導要領では、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成のバランスの重視、授業時数の増加等、様々な面で改訂がなされた。そんな矢先、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、和歌山市の小学校では前年度3月からの臨時休業が5月末まで続いた。外国語教育の中心となるコミュニケーション活動は当然コロナ禍において制限される部分がある。感染予防に配慮しながら、東山東小学校の『一人ひとりが生き生きと活動し、楽しく伝え合える子どもを育てる』～つながりを意識した外国語活動の～の授業実践を中心に、コミュニケーション能力を高める小学校外国語科・外国語活動について実践的に共同研究を進める。

2. 本研究の活動内容

本研究は、連携小学校からの希望をもとに、大学と日程調整を行い、小学校外国語教育の指導案検討や研究授業を実施し、その後の協議会を通じて、授業改善に繋いでいくという趣旨で実施している。

3. 本年度の活動

6/24 小学校外国語教育の学習評価の研修

9/9 小学校外国語科6年・小学校外国語活動3年の指導案検討会

10/28 授業研究と協議会

6年1組 指導者 三谷崇浩 My School Trip

3年1組 指導者 花岡利那 What do you like?

11/4 指導案検討会

12/9 授業研究と協議会

5年1組 指導者 加藤健司 Where is your treasure?

4年1組 指導者 坂田悠太 What do you want?

4. 題材の実践報告 小学校外国語科6年

4-1. 指導者 和歌山市立東山東小学校 三谷 崇浩教諭

4-2. 日時 2020年10月28日(水)

4-3. 学年・組・人数 6年1組 29人

4-4. 単元名 My School Trip(Lesson 6:My Summer Vacation)

4-5. 言語材料

- ・ I went to the zoo. I saw pandas. I ate ice cream.
- ・ It was nice. 形容詞 (beautiful, cute, fun, exciting, delicious)
- ・ I enjoyed shopping. 動名詞 (camping, swimming, cycling)

4-6. 本時の学習

(1) 目標

思い出の文の内容を理解して書くことができる。

(2) 主張点

2週間前に行った修学旅行を題材にすることで、書くことに苦手意識を持っている児童も進んで書くことができるのではないかと考える。

(3) 展開

	児童の活動	HRTの活動	・指導上の支援 ★評価	教材 教具
導入	○始まりの挨拶をする。 Start song を歌う。	・児童達と一緒に歌う。	・思い思いに体を動かし、楽しんで歌えるようにして行う。	・PC
	○めあての確認をする。	修学旅行の思い出を English で書こう。		

展開	<p>○Let's Chant 3 夏休みの思い出チャンツ2 をする。</p> <p>○Small talk 「昨日の楽しかったこと」についてペアで話をする。</p> <p>○Let's play 2 思い出カルタをする。(手順は指導書 P51 に記載) 読まれた基本文型に続くことばを選んで文を完成させる。</p> <p>○Let's Read and Write 修学旅行の思い出をワークシートに記入する。</p> <p>書き終わったら見直しをしたり、自分の文章を読んだりする。</p>	<p>・チャンツをする中で、思い出を紹介するときの言い方を想起させる。</p> <p>・児童が言いたいことを英語で言えるように、机間指導する。</p> <p>・文字を四線上に正しく書けるよう個別に机間指導する。</p> <p>・単語を正しく書けているか、単語間にスペースが空けられているか確認するよう伝える。</p>	<p>・元気に歌ったり、表現に慣れたりできるように何度も繰り返して歌えるようにする。</p> <p>・英語が分からない時は、先生や友達に尋ねたり、学習していない単語などについては日本語で話をしたりしてもよいことを伝える。</p> <p>・英語が分からない時は、先生や友達に尋ねるように伝える。</p> <p>★思い出の文の内容を理解して書いている。(行動観察・ワークシート、振り返りカード点検)</p> <p>・四線上に書かれているか、単語間にスペースが空いているか、文字に間違いがないかを十分に確認させるようにする。</p>	<p>・PC</p> <p>・児童用カルタ</p> <p>・掲示用絵カード</p>
	まとめ	<p>○本時の活動を振り返る。</p> <p>・振り返りカードを記入する。</p> <p>・振り返りカードを書き終わった子同士で紹介する。</p> <p>○終わりの挨拶をする。</p>	<p>・活動の中で良かったところを褒める。</p>	<p>・めあてにそった活動であったかどうかを伝えることで、振り返りカードを記入できるようにする。</p>

4-7. ワークシート

I am Hashimoto Natsuki.

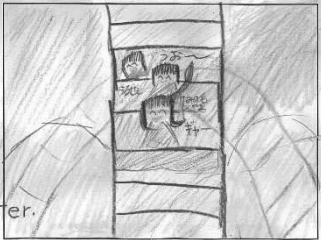
This is my school trip.

I went to Adventure world.

I went a roller coaster.

It was fun.

I enjoyed the a roller coaster.



I am Tanimoto Yuma.

This is my school trip.

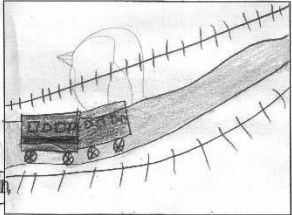
I went to Adventure world.

I saw a penguins.

It was cute.

I enjoyed the kenya train.

センキュー



I am Hiramí Yushin.

This is my school trip.

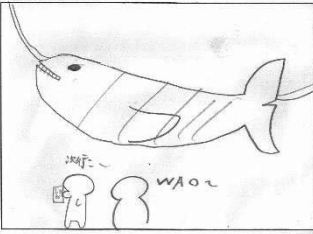
I went to Whale museum.

I saw big whale model.

It was surprised.

I enjoyed fed the dolphins.

the



I am Kawaguchi Ayane.

This is my school trip.

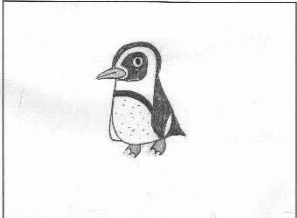
I went to Adventure world.

I saw a penguin.

It was cute.

I enjoyed the kenya train.

センキュー



4-8. 考察

修学旅行を題材にしたことによって児童に必然性を持って学習に取り組ませることができた。それは、実際に体験したことを基に学習を行うため、英語で話されている内容であっても聞き取ることができる場面が多々あったからである。話を聞き取ることができるため、自分の体験したことを話すという最終活動に対しても意欲的に活動に取り組む事ができた。話し手は聞いてもらえる、自分の言いたいことを理解してもらえるという思いがあり、聞き手は話の



内容を聞き取って共感したり自分との相違点に気付いたりすることができるため、双方に話したい、聞きたいという必然性を生み、意欲的に活動に取り組む事ができた。

また、グループに分かれて児童達同士でスモールトークを行った。本単元で学習する過去形を使って、『昨日したこと』について話し合った。この話し合いの中で、児童達が英語を使ってコミュニケーションを取ることの意義を感じた。それは、伝えたいことがたくさんあるが、語彙が少なく、全てを伝えることができないために様々な工夫を凝らして話し合おうとする姿



である。既習の表現を用いて会話をしていく中で、伝えられない表現と出会うとこれまでの既習と結び付けたり、ジェスチャーや表情で表したり絵を描いたり、単語を羅列したりするなどしてなんとか相手に伝えようと努力をした。その姿を見ているからこそ聞き手も話したい内容を推測し、一緒に考えて話し合いを続けようと努力する。こういった話し合いの姿は、メインアクティビティよりもスモールトークのような自由度の高い学習の方がより多く見られ、そこに学習を深めようとする児童の学びの姿勢を育てていくことができるのではないかと感じた。

しかし、児童達の思考を深めさせるための手立てに反省すべき点があった。それは、児童達が学習に取り組む際に提示する教師のモデルについてである。今回、ワークシートへの書き写しの際のモデル文を教師が提示したが、5文書くワークシートに全ての文を記入して提示した。その効果として全員が自分の思いを持って書くことができた。その反面、児童達がどのような文を書くのか思考したり、既習の他の表現を思考したりする機会を作ることができなくしてしまった。またそれは評価をする際にも必要な事であったのではないかと思う。単元を計画するにあたり、より単元最終の児童の姿を想像し、その目標に向かった授業構成と評価の基準を明確にし、単元を練っていかなくては児童達のよりよい成長につながらないものであると痛感している。

今回の実践では、多くの成果と課題が出た。これからも今回の成果と反省を踏まえ、実践を積み重ねていきたい。また、児童達の聞く力や思いを伝え合う力が日常生活に生かしていけるようにするためにはどのような単元構成をするのか、教材・教具は何が必要かなどと言ったことを考えていく、教師の力量も高めていかなくてはならない。このような経験を積み重ねていくことが児童達の相手の話を聞くことや思いを伝えることの大切さの実感に繋がっていく。その児童達の姿に向け、さらなる実践を重ねていきたいと思う。



5. おわりに

コロナ禍において、本年度は各学校において入学式、運動会等が簡素化を余儀なくされ、共同研究校である東山東小学校が予定していた和歌山市教科等別研修会での外国語活動・外国語科の研究発表も中止となった。しかし、東山東小学校の山下真二校長先生はじめ諸先生方の熱意と努力で3・4・5・6年の、「コミュニケーション能力を高める小学校外国語活動・外国語科」の授業研究と協議を実施することができた。また、泉大津市楠小学校の炭本直子先生にもご参加いただき、実践交流ができたことも大きな成果である。

今後も引き続き学校教育現場との連携深めながら、コロナ禍でも豊かな学びを実践できるコミュニケーション能力を高める小学校外国語教育の新しい学習様式のモデルとして、本研究をさらに発展させていきたい。